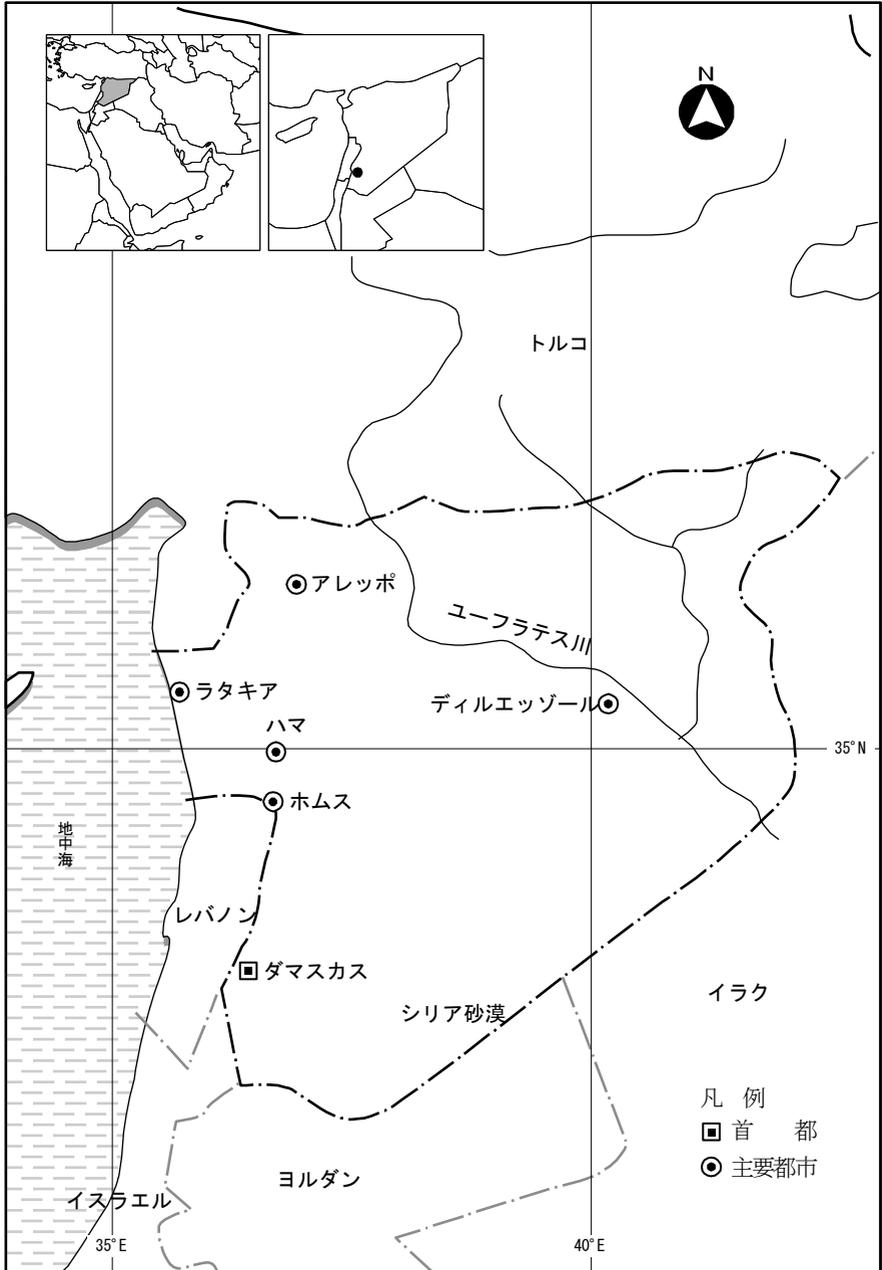


シリア・アラブ共和国



- 凡例
- 首都
 - 主要都市

(一般指標)

国名 (英名)	シリア・アラブ共和国 (SYR : Syrian Arab Republic)	
国土面積 万 ha	1,852 (日本のほぼ半分)	
人口 万人	2,111.7 人口密度 114人/km ² (2012年)	
首都名(英名)	ダマスカス (Damascus)	
首都人口 万人	178.0 (2011年)	
主要言語	アラビア語(公用語)、アルメニア語、クルド語等	
宗教	イスラム教88%(うちスンニ派74%)、キリスト教8%	
国連加盟年月	1945年10月(1946年4月独立)	
通貨単位	シリア・ポンド 1米ドル=139.654(2013年7月)	
国民総所得 : GNI 億米 ^{ドル}	563(2010年)	
一人当りGNI 米 ^{ドル}	2,750(2010年)	
主要産業	農業(小麦、綿)、石油	
日本から輸出 億円	161(2011年)(車輻、タイヤ、一般機械)	
日本の輸入 億円	178(2011年)(揮発油が91.3%を占める)	
土地利用 万ha	耕地	566 (30.8%) (2009年現在)
	森林	49 (2.6%) (2009年現在)
	牧場・牧草地	824 (44.9%) (2009年現在)
度量衡	メートル法	
祝祭日	1月1日元旦、3月8日革命記念日、3月21日母の日、4月17日独立記念日、5月1日メーデー、6日殉教者の日、10月6日10月解放戦争記念日、12月25日クリスマス 移動祝日 : グレゴリオ暦のイースター、ユリウス暦のイースター、犠牲祭祭、断食明け大祭、預言者生誕祭	
気候	地中海沿岸部は、夏季は高温乾燥、冬季は温暖で降雨がある地中海性気候Cs。内陸に入るに従って乾燥が強くなりステップ気候Bs及び砂漠気候BWになる。 首都ダマスカス(標高608m、年平均気温16.4℃、温量指数137.3、1月5.8℃、7月5.8℃、年降水量159mm)。	

(森林の指標)

(森林面積)

森林面積 (2010)	千 ha	491
森林率	%	3.0
森林変動率 (2005-2010)	%	1.3

(森林蓄積)

森林蓄積(2010)	百万 m ³	-
ha 当たり森林蓄積	m ³	-

(人工林面積)

人工林面積 (2010)	千 ha	294
森林面積に対する割合	%	60.0

(森林所有者)

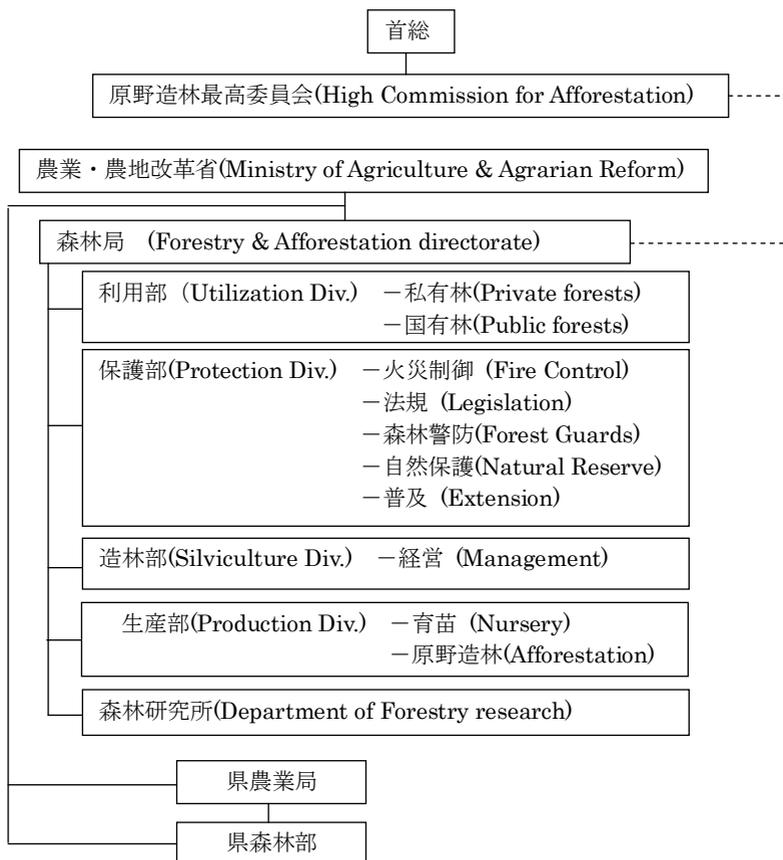
公的機関	%	100.0
民間	%	0.0

(炭素蓄積)

炭素蓄積 (2010)	百万トン	-
年平均炭素蓄積変化 (2005-2010)	千トン/年	-

(森林・林業行政組織)

森林局が森林行政を担っており、農業農地改革省の中の一つの局である。局長の下に各部門を中心的に監督する上級職員と 16 県の地方部長が局長を補佐している。林業の技術的な決定は、ダマスカスの中央局で行われている。県単位では県農業局の林業・森林造成課が担当している。原野造林 (Afforestation) は首相に直属する「原野造林最高委員会(High Commission for Afforestation)」に権限が委ねられている。



注：FAO Country profile より図化

(森林・林業政策)

シリアの林業政策については、1960年代以降、総合的政策が策定され、数度の改定がなされたが、公式には承認されなかった。しかし、森林造成やその他の活動に対して強い政策的意図上の影響を有している。1953年の林業条例で述べられているように、国民と公共資金に最大の便益が得られるように、現存する資源と森林とその資源利用の拡大と保護を強調している。最後の改正は1994年6月7日に大統領の署名で行われた。この中で、森林内での放牧は樹齢が最低10年生以上の森林で行うとしている。

(森林の現況)

シリアの森林は1911年の200万haから、2010年には49万ha、国土の3%にまで大きく減少した(FRA2010)。古代シリアは森林国であったが、度重なる森林火災、木材伐採そして過放牧などにより大きく森林は減った。なお、最近20年間は森林は増加しており、年平均6千haの割合で増えている。

シリアの天然林は約20万haあるといわれる。北部シリアはKurd-Dagh森林地帯があるが、第一次世界大戦中の無秩序な伐採により裸地化した。Kermes カシ (*Quercus coccifera*)、Aleppo マツ (*Pinus halepensis*) そしてヨーロッパクロマツ (*Pinus nigra*) の萌芽林になった。北西部トルコ国境付近では2つの森林地域(BaerとBassit)があり、面積は25,000haである。ここは主要な森林の一つである。Bassitは海岸に近いがAleppo松の密な森林であるが、火災により大きな被害を受けている。Baerは標高800m以上の地域であり、Aleppo松、トルコカシ、そしてVallonesカシにおおわれている。森林は伐採を規制されているが、その林縁はタバコの栽培のため伐開されている。Al-Ansariyah山脈が海岸線に並行に走っており、標高1,500mに達し、Homsまで100km伸びている。頂上には経済的価値のあるナラ類の一斉林となっている。その中に、レバノン杉 (*Cedrus libani*)、Cilicianモミ (*Abies cilicica*) そしてビャクシン (*Juniperus excelsa*) が群生している。標高が800mまで下がると、カシ類の純林が見られる。Al-Ansariyah山脈は2万haの大きさである。内部の森林はほとんどが裸地化している。デーツ (*Phoenix dactylifera*) とピスタチオがシリア砂漠に見られる唯一の樹木である。

(人工林)

シリアの人工林率は 60%と高い。人工林はラタキア州にはレバノンスギ (*Cedrus libani*) の小林分があり、アレッポ州では乾燥地、湿潤地のアレッポマツ (*Pinus halepensis*)、*Pinus brutia* 及び イトスギ (*Cupressus arizonica*) 等の造林地が分布している。

(1) レバノンスギ (*Cedrus libani*) の小林分

海拔約 1,100m の箇所造林された林分があり、何回か補植しているので樹齢は不明であるが、中心となる立木は胸高直径 12cm~14cm、平均樹高 8m 程度、当初の植え付け密度は 10 千本/ha 程度であったと思われた。現在は若干間伐がされているが、それでもまだ過密である。雨量と土壤に恵まれ極めて良好な成育をしている。

(2) 乾燥地の造林地

シリアにおける乾燥地とは年平均降雨量 100~200mm の地帯をいう。これらの乾燥した土地にはアレッポマツ (*Pinus halepensis*)、*Pinus brutia* 及びイトスギ (*Cupressus macroseleupha*) が造林されている。

造林方法は傾斜地では大型のブルドーザーでテラスを作り、リッパーを引かせ、植え穴を掘り植樹している。植え穴は 50X50cm、深さ 30~40cm とし周囲に丸く盛土をするのを原則としている。緩傾斜地ではテラスを作らず直接植え穴を掘っている。植え付けは、4~5 月に苗木を植え、40~60 リットルの灌水を行い、その上に近くの表土をかけて完了となる。灌水は、植え付け時の 1 回の場合とその年の夏、更に 1 回同量の灌水を行うこともある。

(3) 中間地の造林地

年平均降雨量 250mm 程度の地区は中間地とされているが、相当に乾燥している地区である。この地区にはアレッポマツ *Pinus brutia* 混植林分、イトスギ (*Cupressus arizonica*) などが植えられている。

(4) 湿潤地の造林地

年平均降雨量 500~600mm の地帯をシリアでは湿潤地としているが、一般的にはこの程度の降雨量では半乾燥地という区分をするのが普通であろう。Kattoma の造林地はこの地帯に属し、この造林地は 1977 年から造林が開始され、その面積は約 700ha である。造林されている樹種の内、*Pinus brutia*、*P. pinea* (カサマツ) 及びイトスギ (*Cupressus arizonica*) の林分を確認することができた。この造林地は

小高い尾根の部分にあり、石礫の多い乾燥した土壌であり、造林地の条件としては良好とはいえない。造林地中の土壌条件の良いと思われる箇所はオリーブの果樹園とされている。造林の成績は土壌条件を考慮すれば良好であるが、何回か補植をしているようである。

シリアの荒地造林の歴史は 1950 年代初頭から始まった。それは 1~100ha/年間という小面積であったが 1960 年代まで続いた。それ以降数百 ha まで増大し、1976 年には 1,260ha になった。環境保全や国民や経済のための木材の多目的利用の見地から森林の重要性が明確にされ、1977 年に大統領による Decree、No.108 が発布された。この Decree では荒地造林の面積拡大が規定され、最高委員会が荒地造林の責任を負うことになっている。委員会は 5 年間の計画作成から開始した。これは 5 年毎に見直されることになっている。これによって必要な行政、予算の援助の裏付を持った森林局は様々な郷土樹種を大面積に植林できるようになった。実施可能な 5 年計画の平均年間ターゲットは、1977~1981 年は 10,600ha、1982~1986 年は 17,000ha、1991~1996 年は 25,362ha、1992~1996 年は、24,000ha であった。この計画では、シリア全土で 39 の苗畑で、40 以上の樹種の苗木を 3,000 万生産することになっていた。

Dr. Ibrahim Nahal (1991) によると荒地造林の主要目的とは：

- a. 造林対象地域やその近隣の地域社会に雇用や林産物の収穫による永続的な収入源を生み出すことにより、地方地域に社会的、経済的安定を生み出す。
- b. 土壌保全、水源確保等の環境を回復する。
- c. 南北国境地帯やイラクの国境に至る東部地帯のような降水量が 225~250mm の少降雨地域にグリーンベルトを生み出す。幅 10~20km で、延長距離 1,100km にわたり、一般的な自生種や木の実がなる樹木や飼料となる草などを植える。

荒地造林に用いる主要樹種は：*Cupressus sempervirens*、*Pinus brutia*、*Pinus halepensis*、*Pinus pinea*、*Casuarina cunninghamiana*、*Pistacia atlantica* 等である。ポプラ類も集約的に灌漑が行われている地域では大面積に植えられている。その種は、*Populus nigra* var. *hamoui*、*P. alba* var. *roumi*、*P. xeuramericana*、clone I 214 である。

小面積造林に採用される樹木は 20 種類以上にのぼる。その中で重要な樹種は、*Castanea sativa*、*Juglans regia*、*Robinia pseudoacacia*、*Tamarix aphylla*、*Olea*

europarea、*Cupressus arizonica*、*C. macrocarpa* である。道路脇や公園や公共的利用に植えられる特別な樹種もある。

(林産業)

シリアにおいて、森林の存在の意義は、基本的に国土の保全であり、木材産業としての位置づけではない。従って、森林局での計画伐採も存在せず、天然林は禁伐に指定され、保護されている。しかし、この天然林や人工林からの焼損木に関しては、これらを加工し、木炭や用材等に用いられている。

原木生産量の推移と木材貿易量は以下の表のとおりである。

原木生産量の推移

単位：千 m³

年次	薪炭用	用 材				原木生産量
		製材用、 単板用	パルプ用	その他	合計	合計
1985	11	15	—	18	33	44
1990	9	22	—	19	41	50
1995	16	16	—	18	34	50
2000	16	16	—	18	34	50
2006	25	16	—	23	39	64
2010	28	16	—	24	40	68

注：その他は杭、マッチ、ポスト、柵 など

木材貿易量 (2010)

単位：数量万 m³、金額万ドル

製 品 名	輸 入		輸 出	
	数 量	金 額	数 量	金 額
丸 太	4.3	425.3	0.5	—
製 材	69.5	13,926.5	0.0	3.4
合 板	0.2	296.0	—	—

出典 : 1. Forestry in Syria From Wikipedia

(http://en.wikipedia.org/wiki/Forestry_in_Syria)

2. シリア (Wikipedia)

(<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%AA%E3%82%A2>)